

R6.7月

治療開始日	治療終了日	期間	所定疾患傷病名	処置等の内容
7月1日	7月4日	4日	尿路感染症	体温38.2℃ 検尿 亜硝酸 (+) 尿蛋白 (+) 尿潜血 (-) 白血球 (+) Dr診察にて尿路感染症の診断 抗菌剤4日間投与 ノルフロキサシ(100) 3錠 3×1 4日間 解熱剤アセトアミノフェン0.4g頓用 経過観察へ。
7月6日	7月15日	10日	慢性心不全の増悪	喘鳴強く、第3次病院救急搬送。 胸部レントゲン、採血、CT検査にて 胸水貯留、心不全悪化の診断。 年齢的に積極的処置は困難につき入院に至らず施設帰所。 利尿剤処方 (K保持薬、ループ利尿剤) スピロラクソン (25) 1錠 フロセミド (20) 1錠 1×1 朝 喘鳴に対して気管支喘息用剤、去痰剤処方 メプチンミニ (25) 2錠 2×1朝夕 カルボステイン (500) 2錠 経過観察へ
7月18日	7月27日	10日	尿路感染症	体温38.2℃ 検尿にて亜硝酸 (2+) 尿蛋白 (±) 白血球 (±) Dr診察聴診 尿路感染症の診断 抗菌剤5日分投与 ノルフロキサシ (100) 3錠3×1 発熱の改善得られないため抗生剤に内服変更5日分投与 ビクシリンS配合錠 (250) 3錠3×1 経過観察へ
7月19日	7月24日	6日	蜂窩織炎	右足背腫脹熱感あり Dr診察 右足蜂窩織炎の診断 抗生剤6日間投与 ビクシリンS配合錠3錠3×1 腫脹軽減につき経過観察へ
7月27日	7月31日	5日	尿路感染症	体温39.4℃ 検尿にて亜硝酸 (2+) 尿蛋白 (+) pH6 Dr診察 尿路感染症の診断 抗菌剤5日分投与 ノルフロキサシ (100) 3錠3×1 咳嗽、喀痰 (+) につき 鎮咳薬、去痰剤投与 (レソプレノール、カルボステイン) 経過観察へ
7月4日	7月10日	7日	肺炎	7/3、15:00 KT39.9℃ 解熱剤投与 翌日7/4 Dr診察 両肺に湿性ラ音聴取 肺炎の診断 抗生剤7日間投与 ビクシリンS配合 (250) 3×1 解熱剤 アセトアミノフェン0.4g頓用 経過観察へ
7月7日	7月9日	3日	尿路感染症	KT38.4℃ 検尿: 亜硝酸(+) 蛋白(-) 糖(-) 潜血(-) 白血球(-) Dr診察 尿路感染症の診断 抗菌剤、去痰剤3日間投与 Rp)ノルフロキサシ(100)3T 3×1 カルボステイン(500)3T 3×1 解熱剤 アセトアミノフェン0.4g頓用 経過観察へ
7月11日	7月13日	3日	尿路感染症	KT36.6℃ 頻尿あり 検尿: 亜硝酸(2+) 蛋白(-) 糖(-) 潜血(-) 白血球(+) Dr診察 尿路感染症の診断 抗菌剤3日間投与 Rp)ノルフロキサシ(100)3T 3×1解熱剤 アセトアミノフェン0.4g頓用 経過観察へ
7月14日	7月16日	3日	尿路感染症	頻尿痛あり 検尿: 亜硝酸(+) 蛋白(+) 糖(-) 潜血(±) 白血球(+) Dr診察 尿路感染症の診断 抗菌剤3日間投与 Rp)ノルフロキサシ(100)3T 3×1解熱剤 アセトアミノフェン0.4g頓用 経過観察へ

R6.8月

治療開始日	治療終了日	期間	所定疾患傷病名	処置等の内容
8月22日	8月31日	10日	尿路感染症	体温38.7℃ 痰がらみあり 悪寒あり バルーンカテーテル留置中 検尿にて、亜硝酸(2+) 尿蛋白(2+) 白血球(±) Dr診察聴診にて、尿路感染症の診断 ノルフロキサシン(100)3錠 3×1で投薬するが 解熱しない為、ピクシリンS配合錠 3錠 3×1 に変更する。解熱にて経過観察とする。
8月7日	8月16日	10日	帯状疱疹	左前胸部と左背部に水疱破れ黒色痂皮あり。疼痛不明 Dr診察にて帯状疱疹の診断 抗ウイルス剤投与と軟膏塗布の指示 Rp)アシクロビル(400)2T 2×1 5日間 外)ピダラビン軟膏塗布
8月13日	8月18日	6日	尿路感染症	KT38.9℃ 悪寒(+) 検尿；亜硝酸(+) 蛋白(±) 白血球(+) 潜血(-) 糖(-) コロナ抗原キット陰性 Dr診察 尿路感染の診断 Rp)ピクシリン(250)3T 3×1 6日間 熱発時アセトアミノフェン0.4投与 経過観察へ
8月29日	8月31日	3日	尿路感染症	KT38.0℃ 検尿；亜硝酸(-) 蛋白(+) 白血球(+) 潜血(-) 糖(-) コロナ抗原キット陰性 Dr診察 尿路感染の診断 Rp)ノルフロキサシ(100)3T 3×1 3日間 熱発時アセトアミノフェン0.4投与 経過観察へ

R6.9月

治療開始日	治療終了日	期間	所定疾患傷病名	処置等の内容
9月26日	9月29日	4日	尿路感染症	9/25日夕よりKT39℃も発熱症状。Dr診察。尿路感染症の診断 抗菌剤投与 ノルフロキサシ3T 3×1処方(1日分) 翌日も解熱観られないため内服変更 ペニシリン系抗生剤ピクシリンS配合錠 3×1 3日間投与 検尿：亜硝酸(-) 蛋白(1+) 潜血(1+) 白(-) 経過観察へ

R6.10月

治療開始日	治療終了日	期間	所定疾患傷病名	処置等の内容
10月3日	10月7日	5日	尿路感染症	頻尿痛あり 検尿：亜硝酸(+) 蛋白(+) 糖(-) 潜血(-) 白血球(+) Dr診察 尿路感染症の診断 抗菌剤5日間投与 Rp)ノルフロキサシ(100)3T 3×1 経過観察へ
10月7日	10月10日	3日	尿路感染症	KT39.6℃ 悪寒(+) 検尿；亜硝酸(+) 蛋白(+) 白血球(+) 潜血(-) 糖(-) コロナ抗原キット陰性 Dr診察 尿路感染の診断 Rp)ノルフロキサシ(100)3T 3×1 抗菌剤5日間投与 熱発時アセトアミノフェン0.4投与 経過観察へ
10月22日	10月24日	3日	尿路感染症	KT38.9℃ 悪寒(+) 検尿；亜硝酸(+) 蛋白(+) 白血球(+) 潜血(-) 糖(+) コロナ、インフル抗原キット陰性 Dr診察 尿路感染の診断 Rp)ピクシリン(250)3T 3×1 3日間 熱発時アセトアミノフェン0.4投与 経過観察へ